

「第18回私の愛する一点展」に寄せて

梅野記念絵画館友の会
会長 秋山 功

梅野記念絵画館は、今年で開館20周年を迎えました。これを記念して、最早伝説にも成っている傑出した三人の蒐集家（洲之内徹、大川栄二、梅野隆）の蒐品を一同に展示するという夢のような企画展が当館で開催されました。すでにNHKの日曜美術館等でも紹介されていますが、この強烈な個性と優れた審美眼を持った三人の蒐集家のうち、当館の前館長でもあった梅野隆氏が他の二人と大きく違った点は後継者を育てたということではないでしょうか。その証拠が、すでに18回も続いているこの「私の愛する一点展」です。お陰で今年もまた、全国各地から「蒐集もまた藝術である」という言葉に励まされ、大勢の会員の皆様から出品がありました。それぞれの熱い想いが込められています。

また、出品された会員の中から木雨賞が選ばれますが、今年では第五回目となり平園賢一さんに決定しました。平園賢一さんは、第1回展で当時は作者不明であった「髑髏に手を組む自画像」を出品されて注目されました。この作品は、その後各地の美術館でも出品要請があり貸し出されています。その後は彫刻の分野で力のある埋没作家の作品を出品して顕彰して来られましたが、自ら経営する病院に作品を展示してアートセラピーを実践したり、古美術雑誌「小さな蕾」にく絵のある待合室を連載されて美術の普及にも努めて来られました。

また、今年も特別賞が検討され、多年にわたって文人画家としての冬青・小林勇の画業を顕彰努力されてきた小松美沙子さんに授与されました。さらに、今年には学芸員のような美術普及の裏方として地味ではあるものの顕著な活動をしている人に対しても光を当てようということで特別賞が検討され、新潟を拠点に活動されている大倉宏さんに特別賞が授与されました。

その他、幹事が独自に選ぶ幹事賞もあり、年々木雨賞が注目され、その評価が高まってきていることは主催者として嬉しい限りです。会員の皆様には、是非とも今年の力作を観て楽しんで頂きたいと思いま

出品作家一覧

鬨光？、荒井龍雄、荒井陸男、新井狼子、伊川鷹治、池上秀畝、石野容三、伊津野雄二、伊藤快彦、猪熊昇、今關驚人、岩田道夫、宇根元警、梅野亮、大沢昌助、岡野博、小倉尚人、勝野眞言、柄澤斎、楠瓊州、国盛義篤、久米慶子、興安、小堀四郎、近藤克美、櫻井陽司、佐藤利平、沢田満春、澤田文一、篠原昭登、篠原新三、島村洋二郎、清水多嘉示、ジル・サクシック、鈴木信太郎、須田剋太、高田啓二郎、高橋廣峰、武内鶴之助、田島隆夫、棚橋文子、田中康夫、田村泰二、坪内節太郎、冬青小林勇、中尾彰、二瓶徳松、濱征彦、秀島由己男、平澤喜之助、平野遼、深澤軍治、藤山ハン、星崎幸之助、水谷ちとせ、南薫造、宮坂房衛、宮坂勝、宮崎丈二、宮本朝濤、ミロ・ポグラン、宗像元雄、村上三郎、山中現、山村昌明、山下誠一、横井弘三、若林みどり

